

## 「開拓記念碑」

### 長野県松川町・増野地区

長野県南部に位置する下伊那郡しもいなぐんの満州（現・中国東北部）への開拓移民は一万有余人に達し、全国で最も数が多い郡だった（「拓友」1989年発刊）。終戦後、大勢の引揚者を受け入れるには、郷土の既存の農耕地は狭かった。そのため、引揚者は緊急開拓事業により、再び未墾の原野に立ち向かわざるを得なかった。

標高700～850mの旧・大島村西山の村有林地と一部民有地の開放により、46(昭和21)年、満州引揚者を中心に25戸が入植。続いて、旧・山吹村増野原ましのほらの民有林と一部村有地の開放により、47年に30戸、48年に10戸、計40戸が入植した。両地区はそれぞれ、西山開拓農協、増野原開拓農協を設立。入植者は高冷地での様々な悪条件にも屈せず、開拓に精進した。

両農協が近接し、かつ、経営形態が類似していること等から、55年、合併に踏み切り、新たに里見開拓農協を設立。経営の協同化を図り、生産力の増進等を目指した。新農協の主体事業は果樹栽培だった。病虫害防除の必要性から、各地区に共同防除施設を導入したほか、共同選果場を設置して、果実の有利販売に努めた。

現・松川町大島の「増野自治会会所」の敷地内に記念碑がある。65年11月に建立されたもので、碑銘は「開拓記念碑」。裏面には、碑文と入植者の氏名が刻まれている。碑文は「昭和二十二年緊急開拓地として増野原五十七町六反余の原野の開放を受け引揚者等三十戸入植 ここに全国開拓二十周年に当り記念碑を建立する」と記されている。

他の戦後開拓地では、厳しい環境条件等により、多くの離農者が出た。増野地区は、入植者が定着して果樹栽培を継続するなど、戦後開拓の成功例として知られている。

記念碑付近の広大な斜面に多くのリンゴ畑が点在し、眼下には南アルプス連峰が一望できる。近隣には、観光者向けのワイナリーがある。

## 増野地区 「開拓記念碑」

- ①調査日 2018年5月30日
- ②所在 伊那郡松川町
- ③地区の沿革 昭和23年原野が解放され引揚者ら36戸が入植した。
- ④設置年月日 昭和40年11月
- ⑤設置者 入植者
- ⑥碑名 開拓碑
- ⑦碑文（表面） 開拓記念碑 長野県知事 西沢権一郎書
- ⑧碑文（裏面） 昭和二十三年緊急開拓地として増野原五十七町六反余の原野の開放を受け引揚者等三十六戸入植  
ここに全国開拓二十周年当り記念碑を建立す  
昭和四十年十一月 入植者氏名
- ⑨現在の状況 地域の植栽の中で管理されている。



